

会 議 録(案)

会議の名称	令和５年度 第３回西東京市環境審議会
開催日時	令和５年８月１８日（金） 午後６時から
開催場所	西東京市役所田無庁舎３階庁議室
出席者	【委員】松本委員(◎)、矢守委員(○)、国眼委員、村田委員、赤司委員、高木委員、大上委員、大黒委員 ※◎：会長、○：副会長 【事務局】中澤環境保全課長、西川課長補佐（兼係長）、三城主査 【傍聴人】 ０名 【欠席者】 田村委員、泰江委員
議題	１ 開会 ２ 議事 (１) 第２回西東京市環境審議会会議録（案）の確認について (２) 環境基本計画の指標及び数値０目標について (３) 重点施策について (４) 推進体制について (５) その他 ３ 閉会
会議資料の名称	資料１ 令和５年度第２回西東京市環境審議会会議録（案） 資料２ 西東京市第３次環境基本計画素案 資料３ 西東京市第３次環境基本計画 生物多様性地域戦略素案 【参考】西東京市第３次環境基本計画素案（前回からの変更点と追加点）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<１ 開会> ○会 長： 定刻となったため、西東京市環境審議会を開催する。まず、事務局から本日の欠席委員の連絡、傍聴希望者、資料の確認の説明をお願いする。 ○事務局： 本日は、田村委員、泰江委員が欠席の報告を受けている。委員１０名中８名の参加となり、過半数を超える委員の出席があるので定足数に達しており、会議は成立していることの報告を申し上げる。また、本日傍聴希望の方はいない。 ○会 長： 資料の確認をお願いする。 ○事務局： それでは、資料の確認をする。事前にメールにて送付している。送付したものは事務局の方で印刷し用意している。先ず資料１「令和５年度第２回西東京市環境審議会の会議録案」、資料２「西東京市第３次環境基本計画の素案」、資料３「西東京市第３次環境基本計画生物多様性地域戦略の素案」。また参考として、「西東京市第３次環境基本計画素案（前回から	

の変更点と追加点)」である。

< 2 議事 >

(1) 第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について

○会 長： それでは、これより議題に入る。議題(1)第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について、事務局の説明を求める。

(事務局より、会議録について説明)

○会 長： 今、事務局より説明があったが、気になることや追加説明など、必要なものがあれば挙手をお願いします。

なければ会議録についてご承認いただいたということによろしいか。

異議なしと認め、会議録については承認した。

(2) 環境基本計画の指標及び数値目標について

○会 長： それでは、議題(2)環境基本計画の指標及び数値目標について、事務局より説明をお願いします。

(事務局より、環境基本計画の指標及び数値目標について説明)

○会 長： それでは、事務局からの説明に対し、意見や質問等ある方は挙手をお願いします。

○委 員： 西東京市のゼロカーボンシティの基本になっているのは、2030年度を目標に立てているということか。例えば基本方針1の場合に目標値は2030年、そう言う意味では良いが、27頁では2033年になっている。この2033年はこの第3次計画の最後の年である。基準がゼロカーボンシティの2030年と、第3次計画の2033年が食い違っている。基準をどちらかにした方が良いと思うが、それぞれでも良いと言う根拠があるのか。

○事務局： 先ずゼロカーボンシティに向けて、国の目標では2050年が最終の実質ゼロの目標になる。その中間地点として2030年度が設定されており、実現の視点での基本方針1については、2030年度に設定させていただいている。その他の部分については、この計画の計画期間である2033年に設定させている。これについては年度のズレが出てしまうが、これで良いものと考えている。

○委 員： その点は凄く気になっている。説明を聞くとその通りと思いつつ、市民がこの冊子を読んだ時に何か気になるだろう。2030年で統一できるのであれば見やすくなる気がする。計算などが大変なのであれば仕方ない気がする。

○事務局： この計画が10年目標になっているため、2030年だと8年後という形になってしまう。合わせるのなら2033年があると思うが、先ほど申し上げたとお

り中間目標として2030年の区切りを設けているので、基本方針1のゼロカーボンシティについては2030年で設定させていただきたい。

○委員： 2030年は国の方針か。

○事務局： 東京都の方でも2030年で設定している。

○委員： ただ、西東京市では2033年にしては駄目なのか。

○事務局： やはり、どこの自治体も一旦2030年に中間目標を設定している。各自治体も既に2030年でどういう状況なのかを1つの視点としているので、2030年に設定させていただく。

○委員： 2033年度になっている時に2030年の評価はできるのか。

○事務局： 進行管理は年度、年度で行うので、評価できると考えている。

○会長： 他はいかがか。

○委員： 20頁の区域施策編では、ここは特別だと言うことが書かれており、区域とは西東京市と書かれている。だったら他も同じのような気がする。何故、特別に区域施策の言葉がここで出てくるのかが理解できない。これに関わる話であるが、12頁の基本方針1「ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組みます」、その後の重点プロジェクトの箇所で西東京市ゼロカーボンシティ戦略重点プロジェクトと言う話が出てきている。同じではないか。通常の整理の仕方では、基本方針がいくつかあって、重点プロジェクトはそのいずれにも関わるような、横串で刺したようなものを、具体的に進める話が出てくるような気がする。生物多様性の地域戦略は横串で刺さっておりそれぞれに関係している。ゼロカーボンシティだけは同じ言葉が出てきている。少し奇妙な感じがして仕方がない。何故このような整理になっているのか教えていただきたい。

○事務局： 1点目について、西東京市地球温暖化対策実行計画の区域施策編の箇所であるが、国の法律で区域施策編という文言があり、そこと整合を図っている。2点目について、12頁の西東京市ゼロカーボンシティ戦略については、基本方針1「ゼロカーボンシティの実現に取り組みます」を中心に、当然資源循環の部分、地球に良好な環境の部分も関わってくるが、これらを推進するため、取り組みをより詳細具体的に書いたものがゼロカーボンシティ戦略である。特に基本方式1・2であるが、そこに関連したものとして作る戦略である。同じようなことが書かれていることについては、基本方針1の「ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組みます」の数値の所は、二酸化炭素と六価ガスを含めた温室効果ガスの数値を出している。一方、ゼロカーボンシティ戦略については市民もしくは事業者の皆様の方で取り組んでいただくため、温室効果ガスの9割を占める二酸化炭素を対象を絞って記載させていただいている。

- 委員： 前回私が質問したところにまた立ち戻るが、基本方針1のゼロカーボンシティと言う表現がおかしいのではないかと前回話している。地球温暖化対策の取り組みのような言葉を使えば分かるが、基本方針1ではゼロカーボンシティと言いつつも、地球温暖化を防ぐための他のものを含めて言っているような話である。勘違いするから言葉を使い分けたらどうか。単純に基本方針1のゼロカーボンシティを別の言葉に変えればいいような気がする。
- 事務局： 本市では令和4年2月にゼロカーボンシティ宣言をした。各市ではゼロカーボンシティ宣言という風になっているが、その宣言の内容は例えば二酸化炭素を実質0にするとか、二酸化炭素のみならず温室効果を0にするとかという形で、内容の表記に違いがある。ただ、いずれにしろ温室効果ガスを0にするにしろ、二酸化炭素を実質0にするにしろ、その宣言は全てゼロカーボンの言い方をしているので、ここはゼロカーボンシティと温室効果ガスを含めて基本方針が書かれているが、表題としてはゼロカーボンという言葉を使わせていただいている。
- 委員： 通常、縦串と横串を使い分けると言う意味で、同じ言葉を使わないことが当たり前のような気がする。意味が違うっていう話を今言われたが、読む人間は分からない。
- 事務局： ゼロカーボンシティの言葉が二酸化炭素を0にする、含めて温室効果ガスも0にするといった両方の意味合いをゼロカーボンシティの言葉で表現している。確かにカーボンを使っているのに二酸化炭素だっていうところはあるが、それが一般的な理解なのかなと思っている。二酸化炭素を含めた温室効果ガスをなくすことがゼロカーボンシティだということで、確かにこの分野について仕事されていない方にとって誤解を生むところはあるかもしれないが、ゼロカーボンシティという言葉で進めさせていただきたいと思っている。
- 委員： 基本方針1をそうするのであれば、重点プロジェクトの箇所も同じゼロカーボンシティという言葉でそこは先ほどの説明でCO2という話。おかしい。完全に矛盾している。
- 事務局： 言葉としては同じくゼロカーボンシティっていうことを使っているが、ゼロカーボンシティ戦略の方では、まあその中でも二酸化炭素に絞らせていただくと言う断りを入れて書いているので、そこに矛盾が生じているという認識は事務局側としては持ち合わせていない。
- 委員： 区域施策編と言う言葉は、使わなければいけないので使ったと言うことか。
- 事務局： 国の法律の区域施策編と事務事業編という言葉が出てきているので、それ

を使っている。

○委 員： 基本施策1でいっぱい並べてある話は事務事業施策ということか。

○事務局： 事務事業編はこれとは別の冊子で今後作る予定となっている。よってこの中には事務事業編は入っていない。

○委 員： 区域施策前の16頁に書かれているのは、区域施策ではないのか。

○事務局： 環境基本計画というのと、地球温暖化対策区域施策編は基本的には違う計画である。自治体によって環境基本計画と地球温暖化対策実行計画で2つの冊子を作る流れが今まで多かったが、近年計画を何本も作るのは大変であるということで、環境基本計画の中に地球温暖化対策を入れ込んで計画を立てるパターンが多くなってきている。今回西東京市はこのパターンで、環境基本計画の中に地球温暖化対策実行計画を入れ込んで作っている。よって、少し分かりづらいところはあるが、この環境基本計画の一部分を入れ、区域施策編という位置付けで作っているという状況である。よって、取り組み対策としては重なる部分が多いが、温暖化対策としてその削減目標の検討や分析など、そういうところを今回区域施策編という位置付けでまとめさせていただいている状況である。

○委 員： 区域と言う言葉が結構厳密に使われている。ここでは、区域は西東京市になっている。正に全部区域施策ではないのか。そのような気がした。

○事務局： 20頁以降には、分析を中心に区域施策編としてまとめさせていただいているが、全体が区域施策編であること自体がそう言うものであるので、基本方針1の「ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組みます」の表題の箇所に地球温暖化対策実行計画区域施策編の文言をここに持ってきて問題ないと考えているので、表現というか順建てについては検討させていただく。

○委 員： 理解した。

○会 長： その他いかがか。

○委 員： ゼロカーボンの実現については、国は2050年を目標にしており、この我々の計画では2030年でそれを達成することではない。西東京市のゼロカーボンシティの目標は2030年の目標にあったことをやるのではないか。

○事務局： 現行の計画では最終的には2050年の実質0を目指しているが、計画期間は10年間ということで2033年が最終になる。計画の範囲内と言うと2030年が10年間の中に入るので、まずは2030年の目標値を立てて、一旦2035年でこれだけ減らすというのを目指して設定している。

○委 員： 2030年で半減する目標がある。

○事務局： 46%削減である。

○委 員： 0は2050年を目標にしている。ゼロカーボンシティ西東京は2030年が目標

か。

○事務局： この基本計画上では、先ず一時的には2030年を目標設定にしているので、46%削減は一時的な目標になる。基本計画の年度が10年後の2033年の区切りがある関係上、2030年この数字と出しているが、ゼロカーボンシティとして大きく言ってしまえば最終目標としては、やはり2050年が市の目標となる。

○委員： 11頁で、例えば基本方針1でゼロカーボンのこと書いてあるが、後半の「今後、地球温暖化の影響があっても、安心して生活ができるように対策します」、このようなことを書かないといけないのか。少し疑問を感じた。基本方針2の後半のところで「資源としてどうしても利用することができないものについてはごみとして処理します」、これも気になる。基本方針3の後半では「これからも市民が安心して生活できる西東京市とします」、環境に安心と言うよりは快適とかが馴染むような気がする。少し検討していただければと思う。基本方針4について、環境は、1つは長時間かかるということと、1人ではできないということが基本にあると思うので、その事を色々な人たちと協力してやらないといけない。もう1つはそれを長いことやらなければいけない。そして子供や大人が引き継いでいくことが書いてあると良いと思う。

○事務局： 今の意見について、個別にそれぞれの回答は難しいが、例えば3の安心と言う言葉が快適の方が妥当ではないかとか、そういった点について一度精査をさせていただきたいと思う。

○委員： 基本方針について、「今後地球温暖化があっても安心して生活とかできるように対策します」、市としてこの計画を立てて、市民の生活や安全を含めて守っていかなければいけないことは当然あるので、志というか、そういう思いを表現している部分なのかなと思う。これが大事と言うか、理想的なことと思うかもしれないが、やはり崇高な目標を立てるべきかと思うので、このような文言は出てくることはあることだと考えている。

○事務局： 気温が高くなっても、それでも快適・安全に生きていける社会を作ると言ったニュアンスになるかと思う。

○委員： 私も基本方針1の文章に引っかかっており、地球温暖化しないようにゼロカーボンにしようと言っているのに、温暖化があることを認めており、しかもあっても安心してとは例えば水が多くなり橋を強固するとか、建物をもっと高くするような施策をするのであればこのような文章になると思うが、温暖化によっていろんな影響がないようにゼロカーボンをしようと言っているのだから、この文章はおかしいと思う。

○事務局： 基本的に温暖化は進むという大前提がある。多くの影響が発生することは

もう言われており、国の方もその温暖化対策っていうのは、“緩和と適応”と言って温室効果ガスを削減していこう、温暖化をなるべく進まないようにしようなど、温暖化が進む前提で進んだ時にこの水害が発生することなので、このことに影響をどれだけ被害が大きくならないか、その備えをすると言った 2 つの軸、両輪で対策していくことになっている。今回の計画自体も温暖化への対策“緩和と適応”の 2 つの施策で基本方針 1 を作っているの、その部分が基本方針 1 の 11 頁の文章の中で、省エネにも取り組み、削減にも取り組み、温暖化が進んだ後の対策にも取り組む方針でこういった文章になっている。その後ろの施策の部分とちょっと連動した形にしている。

○委員：温暖化になることを前提に、なるかも知れないけれども極力 1.5 以下に抑えたいと言うのは目標ではないのか。超えても良いと言う考え方なのか。別のところで書くべきではないか。

○事務局：この点については、仮に 1.5 に抑える、でも 1.5 上がるとして、その 1 点が上がると色んなところに影響が出る。その影響が出ている中でも、安心して生活が出来るように対策していくことを言っている。

○委員：恐らく 11 頁の基本目標 1 で書かれていることは、15 頁の基本施策 1 と 2 をそれぞれ盛り込んでいる。緩和策と適応策、両方を進めることは世界的な動向である。確かに 11 頁だけ読むと 2 つの意見があることは仕方がないと思いつつも、ちょっと文言を変えることで上手く誤解がないようにするしかないと思う。適応のこと言っていると思いつつ、温暖化を認めている意見が出るとあまり気持ちも良くない。

○委員：基本的にゼロカーボンシティの実現に向けての言葉に全然対応してないから、変な疑問を持つ。「地球温暖化対策の実現に向けて取り組みます」と言う言葉だったらすんなりと入ってくる。

○委員：後で詳しく書く訳だから、ここで書くことは概論を書くことである。最初に書く言葉としてもうちょっと考えないといけない気がする。今言われたように、なる可能性が十分僕も感じるが、そのための準備をしているは良くない気がする。基本方針 2 については、ここに書く言葉か。

○事務局：委員がお話しした資源としてどうしても利用することができないもの、ごみと承知する、当たり前と言うか、ここも当然のことだと先生はおっしゃると思いますが、どんなにリサイクルをしてごみを利活用しても、どうしても残ったものは最終的にはごみとして処理すると言うのは、ここで言いたいのはどうしても他で活用できないものだけがごみとして処理することを少し強調したい。

- 委 員： 文章を後ろに持ってくれば良いのでは。「分別すれば資源になります、分別しなければごみになり、地球環境によろしくない」と書いてもらえばはっきりする。そしてごみは出さない。このような書き方にしたらどうか。3番目は安心も良いが快適や生活しやすいとかが良いと思う。4番目はいろんな人が協力することが謳ってあるが、引き継いで長くやる必要があることを書かれると良い気がする。環境はすぐには変わらないことである。だから継続が必要である。
- 会 長： 皆さんの意見を聞いて思ったのは、11頁の文章の中にはこの後に続いていく例えば基本方針1であれば、15頁から続くことのエッセンスの部分だと思うと、先ほど事務局から言われた“緩和と適応”の言葉を文章の中に入れた方が良いと思う。例えば基本方針2であれば“緩和と適応”を上手く、折角ここに出てきている言葉「資源循環推進」や「適性処理の推進」の言葉とかは出ているのでこの言葉を使う。基本方針3であれば委員も言われていた安心、例えば基本政策8で「快適な街を作ります」、快適の言葉が出ているので、こういった言葉とかを上手く前出しにする、11頁に折りこめば違和感というか、深読みしなくても、こういう事が言いたいのかとかが読み込めるのかと私は思った。
- 事務局： ここの文章の表現については、今までの協議や市民会議の意見の中で、優しい文章で書くべきという意見があって、どうしたら専門用語を使わずに説明できるかを考えた中で、こう言った形になっているというのはある。専門用語を入れて説明することは可能である。ただどっちに振るのか、どのレベルに書けるのか難しいさじ加減の中でこういった形になっているというのが、事務局がまとめた文章である。
- 委 員： 基本方針2であるが、最初の出来るだけごみを出さないのごみと、最後の行のごみとして処理するのとは内容が違うと思う。最初の出さないの中には使えるものはできるだけ使うとかりサイクすると言うのだから、それを含めたものをごみと呼んでいて、最後のところは資源としてどうしても利用できないものはごみとして処理する、この2つのごみに内容は違うと思う。だとしたら、下の2行は私はいらないと思う。そうでないのなら、頭のごみの文章はいらない。ここにごみを2つ並べて内容が違うと分かりにくいと思う。
- 委 員： 基本方針を1頁にコンパクトにまとめていることは良いと思うが、少し中身を検討していただいて、よりは分かりやすく1頁で収めていただくことでどうか。
- 事務局： 11頁はコンパクトにまとめるべきものと考えて、文書量としてはこの位なのかなと思っている。その中で皆様のご意見をいろいろいただいて修正す

る箇所はあるという認識である。改めてこの文章についてはちょっと再度練り直して次回に提示できればと考える。

○委 員： 委員の話したことについて、基本方針1に適応策の話を盛り込むのであれば、ゼロカーボンシティという言葉は確かに適切ではない。この言葉を基本方針、例えば地球温暖化対策に向けて取り組むことにした場合、後々事務として面倒なことになるのか。もしくはゼロカーボンシティの実現に向けて取り組みますと言った方が良いか。

○事務局： 今までのゼロカーボンシティ実現に向けて取り組むことを、市として結構多様に発信しているので、この言葉自体を残していきたいと思っている。適応について、繰り返しになるがゼロカーボンシティが実現はできたとしても、温度で言うと1.5度の上昇を抑える、温度上昇の多少はやむを得ない。その中でも安心・快適に生活するためには適応の視点はどうしても否定できない、離れられない文言であるので、そこは適応の内容がここに入ったとしても、事務局としてはゼロカーボンシティの実現の言葉とは矛盾しない理解である。実現しても適応の所は出てくる。

○委 員： 目標の実現に向けて取り組んでいるのだから、余りタイトルとしては良くない気がする。「地球温暖化対策に向けて取り組みます」の方がシンプルな気がする。もう少し基本方針については、例えば委員も話された通り地球温暖化対策の話をして、ゼロカーボンシティの実現については重点プロジェクトか、もう少し分かりやすい形でアピールしても良いと言う気が増えてきた。ここに時間かけても仕方かもしれないので、もう一度検討してもらえ形が良いと思う。

○会 長： 他いかがか。

○事務局： 言葉の違いというか、ゼロカーボンシティの実現は地球温暖化対策の言葉とイコールだという認識である。地球温暖化対策をしてゼロカーボンシティを実現するという方が正確なのかもしれない。言葉のニュアンスとしては、言葉が違うがゼロカーボンシティの実現するため対策と書けば地球温暖化対策と一緒にしている。確かに「地球温暖化対策に向けて取り組みます」と書いても全然違和感はないというところではある。今、委員から戦略の方でゼロカーボンシティの実現を使ったらという意見をいただいた。そのような整理の仕方も有だと考えるので、この点も整理考えさせていただきたいと思う。

○会 長： 他いかがか。

○委 員： 読みやすくするために優しい文章と言うのは、私自身求めてきた部分もあり、子供が読むかどうか分からないとしても、読む方が子供に伝える場合も砕けていた方が良いと考えるとこういう文章の方がいいんだろうとは思

う。確かに皆さん指摘したところで私も確かにと思いながら、緩和と適応そのところを聞いてそうだな、これならしっくりくるなと思った。ところで、私も会長と同じ意見で緩和と適応の言葉をこの中に盛り込むと分かりやすいのかなと思ったが、確かにそれを入れると仰々しくなってしまう。ここでは疑問が生まれたとしても、その頁まで行ってもらえれば、この書いてある内容も矛盾がないと言えるんじゃないかと思った。例えば基本方針2ではごみを資源として当然のことを書いているが、子供から処理できない物はどうするのか素朴な疑問が生まれた時に、それはごみとして処理すると言うのはめちゃくちゃな話ではないのかなと私は思う。私としては肯定的に捉えている。

○事務局： 先ほどのような話だが、基本方針2のできるだけごみを出さない、使えるものはできるだけ捨てずに使う、先ず3Rの話をさせていただいて、リデュース・リユース・リサイクルの話で、最後に適正処理がある。この辺を専門用語として表現すれば「リデュース・リユース・リサイクル・適正処理に取り組みます」となるが、それでは難しいので、こういう表現をしている。

○会長： 文章を増やしてもしょうがないと思うので、これぐらいの文章量の言葉が良いのかな、ちょっと難しいところではあると思うが。

○委員： 基本方針を読む側の人たちの幅を広く捉えているから、青く書かれているところを子供達を読んでも分からない部分を、下のところで5行位で砕けた説明を入れていると思う。専門家や事務局の説明を聞けば素人の私でも理解が出来るが、子供達の周りで基本方針2はこういうことだと言ったら「えーそうなんだって」、意外と受け入れられるような言葉なのかも知れない。そもそも幅広い方達に理解していただくことはとても難しいことだと言うのが根本的にある。ここで事務局の説明や皆さんの疑問を聞けば理解は出来るが、どれ位の人に浸透することができるのかがまだ不透明。それが分からないと、この文言は難しい感じがする。

○委員： 委員の方々の意見は市民を代表した率直な意見であり、分かりづらい言葉なのかもしれないと思った。ただ行政計画を作る側に立つとゼロカーボンシティは国や区市町村で使われている言葉なので、市長が発言する際も、発信しやすいという点はあると思う。事務局で改めて検討いただくことではあるが、ゼロカーボンシティなど国が使っている言葉を使うことが往々にあると思うので意見させていただいた。

○委員： 最初の方にあった基本方針3の安心か快適かがあったが、快適の言葉が出てきた時に、地域の良好な環境と書いてあるので、「安心して快適に」が一番しっくりくるのかなと私は思う。

○会 長： それでは、次の議題に行かせていただいてよろしいか。

(3) 重点施策について

○会 長： それでは、議題（3）重点施策について、事務局より説明をお願いします。
（事務局より、重点施策について説明）

○会 長： それでは、事務局からの説明に対し、意見や質問等ある方は挙手をお願いします。

○委 員： SDGsとの関係、位置付けはどうなっているのか。

○事務局： 基本方針2、31頁に示している。この中で環境基本計画として基本方針3「地域の良好な環境を守ります」という部分で関連する施策はSDGsとどう繋がっているかと言うことがここで整理されている。その中で先ほどから何回も話が出ているが、12頁の生物多様性地域戦略の部分は基本方針1から3の横串という形で生物多様性地域戦略を整理しており、直接生物多様性の地域戦略をSDGsがどういう風に絡まっているのかと言うのは、明確には整理していない状況である。

○委 員： SDGsが綺麗に絡まっているので、環境や生物の問題などが関係しているのかなと思ったので質問した。この中で関連はうたう必要はないのか。

○事務局： あくまでもSDGsとの関係では、31頁のその基本方針3に計画の本編にあたる部分の中でのSDGsとの関連を結びつけていて、戦略の方は施策をより推進するための詳細な取り組みといったものになるので、そこと位置づけることができれば素晴らしいと思うが、今この時点ではあくまで1つの段階・次元と言うか、基本方針3の本編の部分で結び付けていく整理としている。

○会 長： いかがか。

○委 員： 1つ目は、41頁の資源循環は何を示しているのか。いきなり話が飛んでおり分からない。その後の気候変動対策についてはどこの話をしているのか。もう少し文章を丁寧を書いて欲しい。2つ目のコメントは、①西東京市ゼロカーボンシティ戦略の文章の1文目の主語は“西東京市ゼロカーボンシティ戦略は”だと思うが、何なんだろうと思って見ると“イメージを示しています”と言う述語にかかっている。“戦略はイメージを示しています”はおかしい。戦略であれば目標に向けて何か取り組もうという話だと思う。ここの文章も修正が必要。ここは検討してもらえればいいかなと思う。生物多様性について、生物多様性の話が出て、途中から生態系サービスに言葉が変わっているのが気になる。素案なのでこれから盛り込むのだと思うが、生物多様性は世の中にはいろんな生き物がいるということ。生物多様性があるって私たちの暮らしに対して与えてくれる恵みがサービスであ

る。その辺りの説明を入れると分かりやすいかなと思う。そういう意味でこの資料3については、例えばイラストや写真を使って生物多様性を簡単に説明してもらうのが良い。生物多様性がなぜ重要かも少し説明してもらって、Webとかでは人が開発や乱獲とかすること生物多様性が失われていく、里市里山があまり手を入れられなくて管理されないから森林の質が落ち生態系が崩れていく話などをいろんな情報があるので、イラストで書けば、生物多様性を豊かにすることの重要性が感じると思う。その後で生物多様性と生態系サービスの繋がりを持たせた上でこの本文に入っていけば良いのかなと思う。1頁目の1基本情報、2生物多様性の現状と課題、1)生物多様性の現状と進んでいくが、2)生物多様性の課題があると思ったが出て来ない。4頁で本市における生態系サービスの特徴の課題があるが、体系が綺麗になっていない。番号を振り直して、生物多様性の現状や課題がどうあって、我々としては何をすべきかの3点を示せるようにすると分かりやすい。

○会 長： その他いかがか。

○委 員： 資料3は我々素人にとっては難しい言葉が突然出てきた。単純なイラストを入れていただきたい。1頁の2の1)のa.西東京市の生物生息状況が書いてある中で、下から2ポツ目「公園などの清掃が地域住民の熱心な活動により実施されており、公園内はごみや落ち葉などが除去され良好な景観となっている」は生物生息状況と関係がない気がする。どちらかと言えば、b.生物多様性に関する地域資源のところに入っていると理解できる。6～7頁では基本戦略の具体的な取組を並べているが、取組方針を①～⑤にまとめていた方が良い。何か奇妙な気がした。

○委 員： 難しい言葉が出てくるが、ネイチャーポジティブ経済について教えて欲しい。

○事務局： 分かりやすくなるように補足を入れながら表現させていただく。

○会 長： この部分については整理して次回に出てくる感じか。

○事務局： そうである。

○会 長： それでは、次の議題に行かせていただいてよろしいか。

(4) 推進体制について

○会 長： それでは、議題(4)推進体制について、事務局より説明をお願いします。
(事務局より、推進体制について説明)

○会 長： それでは、事務局からの説明に対し、意見や質問等ある方は挙手をお願いします。

○委 員： 50頁の図の中で、51頁の3)進捗状況の把握や点検・評価及び公表は何処で

行われるのか。PDCAの点検・評価は環境審議会でやるのか。

○事務局： この部分は現行の計画でもそうだが、過去にも重点プロジェクトと計画の進捗状況について、A3の表でまとめさせていただいて、皆さんにあのご覧いただいていると思うがそのことになる。

○委 員： 審議会で行うことで良いか。

○事務局： そうである。

○委 員： 審議会で作って審議会で評価することは問題ではないのか。場合によって第三者機関が評価することが普通のように思う。

○事務局： 第三者評価をしている計画もあれば、その計画を作り諮問いただいた審議会の中で評価しているものもある。

○会 長： その他いかがか。

○委 員： 審議会での評価では、山のように各課の政策が書いてあった。確か質問したと思うが、この評価は誰がやっていると言うと各課が自分で評価を書いているという話であった。表の右上のところに“ご意見お願いします”みたいな感じだったが、我々何を言うのかなと思って、ものすごく不思議に感じたことは今でも覚えている。実際会議の時にも、各課が勝手に評価しているとの説明で終わった。審議会で評価審議したとかの位置付けは全然なかったと理解している。

○事務局： 事務局の考えとしては、各課で自己評価したもの、それは確か評価理由等もちゃんと記載されていたかと思う。それを踏まえて、審議会の皆様でさらに評価していただくという風に考えている。

○委 員： 評価したか。

○事務局： 意見をいただくことを持って、それを評価と考えている。

○委 員： 市民からの反発の声はないか。

○事務局： ない。

○委 員： PDCAだが、最後のActの所も何か入れておいた方が良いと思う。

○事務局： その通りである。脱落していた。

○会 長： その他いかがか。

この議題について以上となる。

(5) その他

○会 長： 議題（5）その他について、事務局より報告事項あればお願いします。

○事務局： 次回、令和5年度第4回の審議会の日程を確認させていただく。次回は「パブリックコメント前の環境基本計画の素案について」、「第2回にしようきょう環境アワードの選考について」他を予定している。候補日としては10月11日（水）でお願いしたいと思うのでお諮りをお願いします。

○会 長：次回の審議会の日程について10月11日（水）の案が出ているが、皆さんのご都合はどうか。

それでは10月11日（水）18時、会場は事務局から連絡するので、よろしくお願いしたい。

最後に皆さんから連絡事項、報告事項あればお願いします。

○事務局： 次回についてはパブリックコメント前の環境基本計画素案と言った形になる。これから約2ヶ月先になるが、今日皆様から多くのご意見、改めていただいたところである。その意見を踏まえて修正できたものについては、出来た部分随時メール等で送るので、大変恐縮ではあるが目を通していただければと思うので、よろしくお願いしたい。

<3 開会>

○会 長： これにて本日の環境審議会を終了とする。

以上